

オオヒラタシデムシ

澄川森林での朝、ネコ車に積んであるニセアカシヤの樹皮を焚火に投げ入れていました。荷台の底がみえてきましたら変な虫が脱出すべくもがいているのです。20 mmくらいの大きさで脚が6本なので昆虫なのです。ちょっと触ってみますとワラジムシのように脚を縮めて丸くなるのでめんこくなりました。取り敢えずデジカメで撮影。荷台の縁の傾斜で脚を滑らせて登りきれずにいるところを、傍で見ていた心優しい田山さんが虫を捕まえて外に放してくれました。画像には2017年8月21日9時33分と記録されました。



帰宅後調べましたらどの森でもしばしば見かけるオオヒラタシデムシの幼虫でした。ほぼ日本全土に分布しています。漢字表記は「死出虫」で、生態的にはミミズの死骸をはじめ多くの生物の死骸や獣糞などに群がって食べるので、汚いし、気持ち悪いのです。その幼虫も成虫も厭な臭気を発しますので、ゆめゆめ素手では捕まえないでください。この臭いはなかなか取れないとのこと。しかし、見方を変えれば森の汚物を掃除してくれるばかりでなく、分解して植物の肥料にしてくれる有難い存在なのです。図鑑「札幌の昆虫」によりますと出現時期は6～8月。成虫の大きさは18～23 mmとのこと。

尚、シデムシ科として括られる虫たちはこいつの他に10種類も記載されています。

澄川森林E区は特にニセアカシヤが多くて、ここ4年ばかり冬期作業で重点的に伐採してきました。木材としての用途がありませんが、材質は固くてチェーンソーの刃をこまめに鑢がけをしなければなりません。一部巻枯らしも試しておりますが、材は集材して薪にして活用することにしまして、薪作りをしています。樹皮が剥がれやすく作業場周りが汚くなりますので、それを集めて焼却処理をしているのであります。この夏の作業の一つはニセアカシヤの切り株や残根からの萌芽を刈払う作業をしています。足元は悪いし、棘はあるし、藪漕ぎは暑いしで、高齢者向きの仕事ではありませんが、わが集団は果敢にチャレンジしているのであります。

